

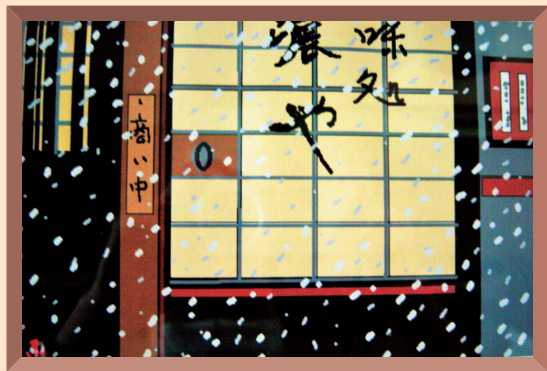
ボランティア紹介

当病院で活動されているボランティアの方々の活動状況及び作品等をご紹介します。

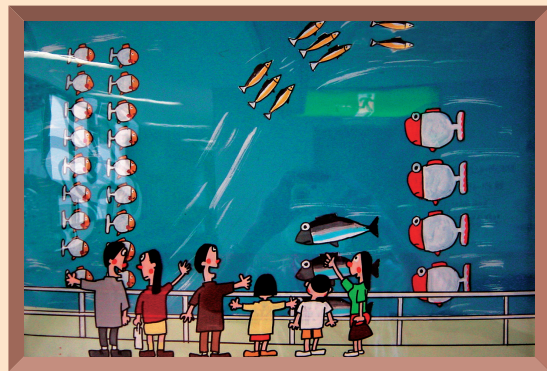
第1回
「絵」
ギャラリー
紹介

お二人の画家をご紹介します。

川上正太郎さんの日本画「読みあきた」がレストランに、パソコン画「冬支度」「ひとやすみ」「障子」「おいなりさんの仲見世通り」などの力作が外来ロビーに展示されています。
永山博之さんのユニークな作品として「旅は健康に良い」「この風呂は混浴です…よ」「水族館」「新撰組と鞍馬天狗」「私は魔女です」など楽しめます。心をほぐしてくれるオアシスになっています。(ボランティアコーディネーター 諏佐かづ子)



川上正太郎さん作品「障子」



永山博之さん作品「水族館」

ご意見 Q&A

意見箱より

喫煙所の場所を…

Q 喫煙所の場所を指定した方がよいのでは？
(ご本人は禁煙者の方)

A 当院におきましては、平成18年8月から敷地内全面禁煙として取り組んでおり、その周知を図るため院内各所へ掲示等を行ってきております。患者様の健康を考慮しまして、今後も喫煙場所の指定は予定しておりませんことにご理解をお願いします。

病室内テレビ料金が…

Q 病室内テレビ料金が安い、テレビカードの残度精算はどのようにするの？

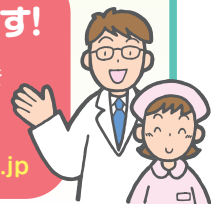
A 病室内のテレビは、業者との6年間のリース契約に基づき設置しており、現在の機器は平成

21年3月末までの契約となっております。現時点で他機種への変更は契約上できませんので、ご理解をお願いします。利用料金は、1,000円のテレビカードで20時間ご視聴でき(50円/時間)、当該テレビ機器では平均的な料金となっております。テレビカードの残度精算は、各病棟のテレビカード販売機に併設して、「テレビカード精算機」を設置しております。精算機のご利用方法は、カードを挿入すると残度の料金が払い戻されますのでご利用下さい。

なお、当該テレビカードは、各病棟に設置している洗濯機及び洗濯乾燥機にもご利用できます。

ご意見 お待ちしております！

何かありましたら、各階にございます意見箱をご利用ください。
メールによるご意見もお待ちしております。
E-mail: goiken@chubyoin.pref.ibaraki.jp



看護師募集

- 看護師を目指しているあなたへ
あなたのやる気を応援します。
- 在宅のあなたへ
もう一度「看護の道」にチャレンジしてみませんか？

随時
50名

あなたの成長と
キャリアアップを
サポートします！

＊質の高い看護と魅力ある職場づくりに努力しています。
＊教育、研修、安全管理体制をしっかりと整え、スタッフ全員であなたの成長を支援します。

防災訓練実施！

当院では地域住民の皆様のご協力を得て、防災訓練を実施いたします(トリアージ訓練等)。
●日時:10月17日(水) 午後2時～
●場所:茨城県立中央病院敷地内

編集後記

人(患者様やご家族の方々)との繋がりを大切にしたい」という思いをお伝えしたく、「ほっと…タイムズ」の広報開始となりました。病院内の情報をほんわかと温かくお伝えできたらと思います。宜しくお願い致します。

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター



2007年9月

秋号

Vol.01

ほっと…タイムズ

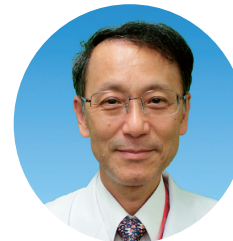
【編集・発行】茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター 〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121
ホームページ <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/cyubyo/>

- 院長紹介 ……………P1
- 病院紹介コーナー
病気を知ろう:豆知識 ……………P2

目次

- 院内トピックスコーナー ……………P3
- ボランティア紹介コーナー ……………P4
- 患者様からのご意見Q&A ……………P4

院長紹介



広報紙発行によせて

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター
院長 永井 秀雄



病院は本当であれば、訪れたくない場所です。痛みや吐き気、めまいに頭痛。そのような病気をかかえて訪れな

ければならない病院は、嫌なところ。そう思っている方は多いでしょう。なぜ自分だけ?くやしい思いの方もいらっしゃるはずです。

私たち茨城県立中央病院・地域がんセンターの職員は皆様の一刻も早い回復を願って日夜働いております。私たちも緊張の毎日です。そんな病院にも、そんな病院だからこそ、「ほっと」する時間、空間があってもよいのではないかと。その思いが冊子「ほっとタイムズ」を生みしました。

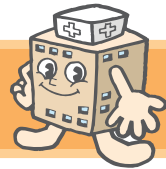
病院を訪れる皆様に院内の出来事、病気の知識、催し物のお知らせなど、さまざまな情報を定期的にお届けしたいと考えております。編集方針は、「肩の凝らない内容」。どうぞお気軽にお読みください。



茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 ホームページ <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/cyubyo/>

病院紹介



ICU開設によせて



3階中病棟のリハビリ室の隣に、ICU（集中治療室・4床）が開設しました。救急外来や病棟からの重症患者様や手術室からの大手術後の患者様に対応するため、2:1看護で患者様の小さな変化も見逃さない体制をとっています。

現在までのところ、外科、脳神経外科、循環器内科、総合内科を中心に利用して頂いておりますが、利用の多いときは4床しかないこともあり、夜間でも退出可能な患者様より転出いただく状況もあります。夜間の入退室では、患者

救急センター長
ICU副ユニット長
片田 正一



様やご家族の方々にも負担をおかけする事にもなりますが、より重症の方に対応するためご理解ご協力を頂きたいと思います。

8月の一ヶ月間の試行期間後に正式なICUとして認可されました。歩み始めたばかりのICUですので不十分なところも多いと思われませんが、安全な利用しやすいICUを目指していきたくとスタッフ一同頑張っています。



病気を知ろう



「胃がん」ってどんな病気？

消化器外科
山下 裕玄



胃癌は未だに我が日本国においては癌死亡率の上位を占めている癌です。2003年の日本における死者数は49,535人(男32,142人、女17,393人)で、男性では肺癌に次いで第2位、女性でも大腸癌に次いで第2位です(厚生労働省 人口動態統計より)。胃癌が国民病であると言われて久しいですが、未だにその状態は変わらないようです。

6年前に日本胃癌学会から胃癌治療ガイドラインが公開されて、一般的な治療指針が示されました。胃癌の治療は原則“切除”になりますので、大部分が開腹手術となりますが、早期の癌の中には転移がなく、胃カメラで癌を切除することで治療が完了するものもあります。近年は粘膜下切開剥離(ESD)という技術の導入により、多くの早期胃癌が胃カメラで治るようになってきています。やはり早期発見が大切ということですね。

厚生労働省研究班から、ピロリ菌感染歴のある人は、ない人と比べて胃癌になるリスクが10.2倍と昨年報告されました。ピロリ菌感染者が全員胃癌になる訳では勿論ないのですが、10倍という数字は、胃癌発生にこの菌が強く関与していることを示唆する結果だと思われます。実は、100%ではありませんが概ね胃カメラでピロリ菌感染については判断できます。ピロリ菌関連の胃炎もそうでない胃

炎も、病名は“慢性胃炎”ですので、場合によっては、“軽い胃炎ですね”で説明が終わってしまいます。どのタイプの胃炎なのかということまで説明を受けて、自分の胃癌リスクについて認識を持っておく方がよいかもしれませんね。

早期胃癌の大部分は症状がなく、検診などでたまたま発見されることが多いです。ですから症状の有無で検査を受けるか受けないかを決めない方がよいと思います。スキルス胃癌と言われる進行胃癌があります。胃が癌の浸潤で力チカチにたかくなってしまって、しかも癌細胞が胃の壁を貫いてお腹中に散らばってしまい手術で取り除けない状態で見付かることも少なくありません。このタイプは進行癌であっても意外と症状が出ないことが多くて、何故もっと早期に見つからなかったのか？検診を受けていれば…と考えしてしまうこともしばしばです。

胃癌検診を受診していると胃癌による死亡率が下がると報告されておりますので、上記のような背景について知識を持って積極的に検診を受けていくことで、早期発見・早期治療につながり、結果として胃癌の治癒率が上がっていくことを期待したいですね。



院内トピックス

キッズくらぶ イン ホスπιタル 開催



対象:小学生とその保護者

日本の未来をになう子供たちに医療の現場を知ってもらおうと、「キッズくらぶ・イン・ホスピタル」を7月28日に開きました。子供向けの職業案内はさまざまな業界で行われるようになっています。「キッズくらぶ・イン・ホスピタル」にも似たような願いを込めました。できるだけ多くの子供たちに医師や看護師になって欲しい、と。しかし、それだけではありません。たとえ医療の世界に将来入ってこなくても、病気を知り、病気に挑み、医療への関心を深めてくれたら…。思いやりと慈しみの心を持ってくれたら…。そんな思いも込められています。

真剣なまなざし、輝く瞳、旺盛な好奇心。これなら日本の将来は大丈夫。しかと実感した1日でした。(院長 永井 秀雄)



“Making of キッズくらぶ in Hospital '07” ～裏方話～

実行委員長 研修医
鯉淵 士富子

記念すべき第一回実行委員会は、6月のある火曜日、夜8時から病院近くの食堂で開催されました。初めての企画であり具体的なイメージがつかめない、実行委員はみんな研修医であり日常業務だけでも忙しい、課題は山積みなのかどうかさえわからない状態でのスタートでした。イベントが大

盛況に終わり、実行委員一同ホッとしているところです。今回のイベントではお子さん、保護者の方々に医療を体験していただけた点で嬉しいのはもちろんのこと、準備を重ねているうちに、日常臨床では発揮されることのない各研修医の意外な才能が発見できたという点でも貴重で面白い体験でした。

最後になりますが、今回の企画を開催するにあたってご参加くださった方々、ご協力くださった全ての方々に感謝申し上げます。



ふれあいコンサートの歴史

平成5年からクリスマスシーズンに有志の合唱、医師のバイオリン演奏、大学生のバンド演奏によるコンサートを行ってきました。平成7年がんセンターオープンと共に、県民文化センターで活躍したピアノの名器“スタンウェイ”の払い下げを受けたのを契機に、患者様とふれあいを深め、潤いのある病院を目指して定期的開催していくことになりました。平成7年12月20日に初回コンサートが実施されてから12年が経過し、68回も続けて来られた事はとても素晴らしいことです。皆で手作りのコンサートに参加しませんか。(ボランティアコーディネーター 諏佐かづ子)

